

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795500129		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター八尾萱振 (1F ベンてん)		
所在地	大阪府八尾市萱振町7-71-2		
自己評価作成日	平成26年6月17日	評価結果市町村受理日	平成26年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2795500129-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケアについて力を入れており、社内・外問わず研修に向くなど認知症の理解を深める努力をしております。また、認知症ケア指導員や認知症ケア専門士の資格取得や地域の皆様に認知症についてご理解いただけるよう勉強会も開催しており、ご家族様・地域の皆様へ認知症の方へのかかり方やセルフケア等の相談もお受けいたしております。また、医療との連携も充実しており、内科・認知症科・皮膚科・歯科が往診に来てくださっており、それぞれの医師も連携を取ってくださっています。薬に関しても薬剤師が各医療機関と連携を取っており薬剤師より居宅管理指導を受け適切なタイミングで適切な服薬が来ております。認知症のご本人を支える環境がどのようなものなのか、互いに支え合う環境づくりとは何かを常に考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームでは利用者が暮らしに関わるすべての人が互いに支え合う為に何が必要かを考え、利用者のよき理解者となりその人らしく暮らすために様々な事にチャレンジし、なじみの暮らしを継続し地域に溶け込み、笑顔で生活できるようにチームケアを行う事を理念に掲げています。特に身体拘束についての弊害を学び玄関やユニット、エレベーター共に施錠がされておらず開放することで利用者は穏やかな暮らしに繋がったり、職員は何が利用者にとって嫌な思いを与えているのかと言う事について問題意識を持ち、日々利用者の気持ちに寄り添い支援を行っています。医療面では提携医師、訪問看護師との関係も良好で、往診記録、訪問記録及び指示を文章で残しています。情報を職員と共有することで終末期ケアにも取り組み、職員の思いが一つになり利用者を支えているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を「支え合う環境」としチームケアやご家族との関わりご本人との関わり、ご本人様を取り巻く全ての人が互いに支えあっていける環境づくりを行っている。	ホームの理念として「支え合う環境」を作るために何が必要か、どのような事が出来るかを職員全員で考え作り上げています。また分かりやすく図に表し玄関に掲げ明示しています。毎月の会議ではケアを振り返り理念の実践に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や地域の美容室・カフェを利用している。また町内会にも積極的に参加している。	自治会に加入し地域の行事にも参加しています。近隣の高校に散歩に行ったり、利用者が散歩している際には近隣の方とのあいさつする等、良好な関係を築いています。また歌や踊り等のボランティアなど近隣の方がホームに訪れたり、保育所との交流や中学校の職業体験の受け入れ等、活発に地域と交流がなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域や学校で開かれる認知症の勉強会に講師としてお招きいただき認知症について地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催しており地域包括や民生委員より助言いただいたことに関して実践しサービス向上に繋がった事例もあった。	運営推進会議では、サービス内容や地域との交流等の報告がなされています。参加者からは、要望や助言など意見をもらいサービスの向上につなげています。会議は地域包括支援センター職員や民生委員、家族、職員で構成されています。	会議での意見・要望・助言等をサービスにつなげるための対策、結果を文章で報告を検討されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告や介護事故等の報告、また運営に関する相談をしており助言を頂いている。	運営推進会議の議事録や各種報告書を管理者が市役所に直接手渡しています。その際に事例を含め相談を行うなど良好な関係が築かれています。また、勉強会などの案内もあり参加を予定しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員に虐待の勉強会を開催しており弊社の高齢者虐待防止マニュアルと連動し虐待防止委員会を設置、毎月勉強会を行い拘束についても常に意識するよう取り組んでおります。	法人が行う身体拘束についての勉強会には管理者が参加し、職員に伝達講習を行っています。内部研修では、身体拘束をしない工夫を職員一人一人が実践している事をまとめ、回覧し職員間で共有しています。日々の対応に対して反省点も含め評価し、次の目標として掲げ利用者が自由に暮らせるよう職員間で連携し実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員に虐待の勉強会を開催しており、虐待防止委員会を設置、毎月勉強会を行い周知徹底しております。		

ニチイケアセンター八尾萱振(べんてん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については司法書士に来てもらいご家族・スタッフ・地域の皆様対象に勉強会を開催し、それ以降後見制度についてご質問を受ける機会が増えた。(4月13日開催)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前・その後も十分な説明を行い、その都度ご理解いただけるよう努めている。また書面でも案内し必要なご家族にはご自宅まで伺って再度説明等も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来訪の際、直接ご意見を頂いています。また、家族会で要望等の確認も行っており、運営に生かしている。	家族の面会時には直接意見を聞いたり、遠方の方にも月に1度電話での近況報告と意見を聞いています。また家族会は年に2回開催され、外出や医療についての意見をもらいサービスに活かすと共に会議の議事録を全家族に送っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット会議を行い意見を聞いて話し合いを行っている。また、常に相談できる環境を作っている。	月に2回全体とユニット毎の会議が開催され職員が活発に意見を出せる環境にあり、職員の提案で業務の改善につながった事例もあります。また、感染症等の委員が決められ、担当者から提案や発信があり検討しています。管理者と職員は定期的な面談を行い職員からの提案や相談ができる環境が整っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップのための制度がある。(対象者全てが受験できている)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全スタッフ、入社時に研修がありその後も職員の段階や年数に応じ社内・外研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の施設部会に加入しており、交流を図りサービスの向上に生かしている。またグループホーム連絡協議会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントや基本情報として本人から困っている不安・要望などを聞き取りを行うが困難な場合、ご家族様の代弁や生活を参考に信頼関係をもてるよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居時に家族差万個待っている事不安な事要望などを傾聴しスムーズに入居していただけるよう支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの情報提供も行っている(ご本人の容態を考え必要なサービスへの切り替えを行った事例もあり)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	環境の変化に対する不安を受け止め出来る事を一緒に行う事で安心して生活できるような基盤づくりを心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1回/月 ご家族様へご本人の様子を手紙にて報告させて頂いており、ご本人を支える一員であることを理解していただけるよう協力依頼し絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を知る事でコミュニケーションが広がり、より関連した情報を得ることができる。それを活用し関係が途切れないようご家族様に協力をお願いするなどしている。	昔なじみの友人が訪ねて来て自室でゆっくりと過ごせる時間を提供しています。また、以前に過ごしていた場所に散歩に行ったり、家族と共に家に外出したり、孫の結婚式に参加するなど、これまでの生活を継続できるような支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を考慮した環境やスタッフが介入し入居者同士が互いに支えあえる環境づくりを行っている		

ニチイケアセンター八尾萱振(べんてん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があったときには経過を伺い情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族様から得られた情報・思いを基本にプランニングを心がけている	家族や利用者に常日頃聞き取りを行い、アセスメントシートに記載しケース検討を行い、個々の思いを汲み取れるよう努めています。また日々の介護記録に記載し職員間で共有し周知できるように取り組んでいます	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を出来るだけ詳しく聞き馴染みの生活に沿えるよう情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の習慣や心身の状態を把握し役割をもって生活していただけるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様に関する全ての人から意向や助言を頂き、それを反映させたプランを作成している	センター方式のアセスメントを利用し本人の思いを本人の言葉で記録し、チームでケアの方向性などを考えながら介護計画を作成しています。毎月モニタリングを行い、計画に合わせた記録もあり現状に即して実践できているか確認し、3か月を基本として担当者会議を行いカンファレンスをして見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	往診記録をはじめ、日々の個人活動の記録は随時介護記録に記入し言動から本人の気持ちを知る事も出来、介護支援計画の参考にもしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応する為にご家族やボランティアにも協力をお願いしている。また必要に応じて自費サービスもご提案している		

ニチイケアセンター八尾萱振(べんてん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域との関わりをもって、新しい人間関係を構築できるよう支援している。(歌ボランティア2回/月 ハンドマツサージボランティア1回/月)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医とは、連絡相談を基本として日頃の体調管理を報告し体調不良の際には適切な指示を受けられる関係を保っている	かかりつけ医は家族や本人の希望のより選択してもらっています。内科・精神科・歯科は定期的な往診があります。また提携医とは24時間連絡が取れ、状態が急変した場合に連絡し指示を貰える等、体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の体調変化や服薬について1回/週訪問看護師に相談し受診記録を作成し往診時には報告をスタッフ間で共有し支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合はサマリーの提供を行い退院に向けた情報交換できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その都度、ご家族様・往診医と話し合い支援している。	ホームとしての終末期の対応指針があり、入居時及び重度化した場合に家族に説明し、意向を確認しています。また、職員研修も行いながら終末期の支援を行っています。その際には医師・訪問看護師、家族と相談しながら最良の方法を検討し対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習受講・避難訓練時に消防士・救命士に簡単な処置の方法等も教えてもらい実践力を身に付ける努力を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署より訓練に来て頂き避難訓練を実施、近隣駐車場を避難場所としており協力体制も依頼している。	消防訓練は年の2回昼・夜間を想定して行っています。初期消火・避難訓練を入居者と共に行い避難場所は近隣の駐車場を想定し、地域の協力も得られる体制となっています。また、備蓄食料の準備もできています。	

ニチイケアセンター八尾萱振(べんてん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時やトイレの誘導など本人の体調やADLを考慮してプライバシーに配慮した声掛け・ケアを行っている	接遇マナーについての研修会を行っています。基本的には敬語で丁寧な言葉使いを行うように指導しています。不適切な言動が見られた場合はその場で注意しています。また、排泄時の声掛けには細心の注意を払い、本人の尊厳を大切にしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定・意思表示が出来るような環境・声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	計画に基づいたケアを行い、お客様のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容や近隣の理美容を利用しおしゃれを楽しめるよう支援している。またハンドマッサージなどの美容関係のボランティアも導入した		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から食後の片付けまでを個々の状態に合わせて協力して頂き、皆さんが食事づくりに関れるよう支援している。	献立は利用者の意見を聞き献立会議で決定しています。食材は業者より配達されますが、下ごしらえ、配膳・下膳・後片付けは利用者と一緒にしています。また、イベント食で弁当をとったり、家族と外食に出かける等、食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや食事量・水分量を考慮し記録にとって状態を把握している。また状態に合わせてミキサー食も対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っており、歯科往診での口腔ケアも取り入れている。		

ニチイケアセンター八尾萱振(べんてん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを確認し声掛け・誘導・パット交換している	排泄表を作成し利用者の排泄パターンを把握し、個々のタイミングで誘導を行い失敗のないよう支援し、紙パンツや下着などは本人の意向を聞き対応しています。自分でトイレに行ける方の能力を維持出来る様に支援を行っています。水分量を調節することで自然排便があり下剤の量が軽減出来ています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食材と運動にて予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	容態を把握した上で本人のタイミングで入浴できるよう声かけし自己決定していただいている。	入浴は週に2回から3回基本的な入浴日を決めていますが、入浴を拒否する方は時間を変更するなど、様々な関わりを試し無理のない入浴ができるように配慮しています。また、季節を感じてもらえるように、ゆず湯や菖蒲湯などにより心地よい入浴を提供しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを大切にし休息や安眠できるような環境を整え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報はスタッフ間で周知しており状態の変化等は記録している。また、薬剤師との連携にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	将棋や読書、洗濯物など生活歴に合わせた活動の支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望にそって近所の散歩は積極的に行っている。遠方へはご家族への協力をお願いしている。	天気と体調の良い時は毎日でも散歩やなじみの場所に出かける支援を行っています。1階のテラスでは外気浴やお茶会を行っています。行事として家族も誘い花見や関西空港へ出かけ、帰りは公共交通機関を利用して外出を楽しんでもらっています。	

ニチイケアセンター八尾萱振(べんてん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に応じてお小遣いを所持してらっしゃいます。また、日用品やおやつをスタッフと一緒に買いに出かけます。支払や商品の選択はご自身でして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望に応じて支援してます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて窓を開けたり、はなを飾ったりしている。また動きやすいように空間を整理している。	リビングは明るく温度湿度管理にも配慮しています。畳のスペースでは洗濯物をたたんだり、廊下の隅に休憩できる椅子を配置し、休んだり一人になれる場所を確保しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を利用者間の関係の状態に合わせて変えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や本人の好みや馴染みに合わせて工夫している。	居室は明るく使い慣れた筆筒や冷蔵庫等の家具が設置されています。また、趣味の道具、家族の写真等を持って来られ、利用者の過ごしやすい居室となっています。また、表札は手作りで個々に合わせて装飾されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の配置を可能な限りご本人の状態に合わせて工夫している。		